全国のバス火災事故事例　　（参考）

	発生日	業態	事故の概要
1	平成27年12月28日	貸切バス	平成27年12月28日（月）午前8時45分頃、東京都の都道において、千葉県に営業所を置く貸切バスが客待ちのため停車中、車内天井の蛍光灯付近から出火した。出火に気付いた運転者が車載の消火器で消火を試みたが延焼したため、運転者が消防へ通報し、その後、消防の消火活動により鎮火した模様。バスは、天井部分がほぼ焼け落ちた。この事故による負傷者はなし。
2	平成27年12月29日	貸切バス	平成27年12月29日（火）午前11時30分頃、長崎県の商業施設駐車場において、同県に営業所を置く貸切バスが乗客28名を乗せて運行中、運転者がバスのエンジンを始動した後、異音に気付き乗客全員を避難させ点検したところ、車体中央部のバッテリー付近から出火した。運転者は消防に通報するとともに消火器にて消火活動を行った。この事故による負傷者はなし。
3	平成28年1月4日	貸切バス	1月4日（月）午前6時50分頃、北海道の市道において、道内に営業所を置く貸切バスが乗客11名を乗せて運行中、異音がしたため車両を停車させたところ、乗客から煙が出ていると申し出があり、その後、車体後部から出火した。バスの乗客は全員避難し、この事故による負傷者はなし。火災は、消防による消火活動により午前8時前に鎮火した模様。
4	平成28年1月23日	貸切バス	1月23日（土）午後3時30分頃、東京都の都道において、都内に営業所を置く貸切バスが回送中、網棚に設置されたスピーカーから発火したため、すぐに路肩に停車し、車両に設置された消火器で消火した。この事故による負傷者はなし。（回送中のため乗客はなし。）バスは修学旅行の生徒らを羽田空港で降ろし、営業所へ帰る回送中であった。
5	平成28年1月25日	貸切バス	1月25日（月）午後3時19分頃、北海道の道道において、同県に営業所を置く貸切バスが乗客24名を乗せて運行中、車両後部左側タイヤ付近から出火した。この事故による負傷者はなし。事故は、バスが走行中、車両後部から白煙が発生しているのを発見し、車両を停車させ、乗客を降ろしたところ、車両後部左側タイヤ付近から出火した。その後、約30分後に鎮火した。バスにはスキー学習のために中学校の生徒23名、教員1名が乗車していた。
6	平成28年1月31日	貸切バス	1月31日（日）午後4時30分頃、岡山県の高速道路において、京都府に営業所を置く貸切バスが乗客30名を乗せて運行中、ゴムの焼けるような匂いがしてきた後、急にハンドルが取られたので路肩にバスを止め点検したところ、後輪付近から出火した。火災は、その付近に延焼したが車載の消火器のみで消火した。この事故による負傷者はなし。
7	平成28年2月8日	貸切バス	2月8日（月）午前9時30分頃、北海道の高速道路において、道内に営業所を置く貸切バスが乗客36名を乗せて運行中、運転者が焦げ臭い匂いを感じ、高速道路の路側帯に停車させ車両を点検したところ、後軸付近より煙が上がっており、その後出火した。この事故による負傷者はなし。火災は、運転者がバスに備え付けの消火器で消火活動したところ、消防の消火活動を待たずして鎮火した模様。バスの乗客は、台湾からの旅行客であった。
8	平成28年2月13日	乗合バス	2月13日（土）午後4時30分頃、東京都の都道において、都内に営業所を置く乗合バスが運行中、エンジンルームから出火した。運転者はバスに備付けの消火器を使用したが消火できず、消防の消火活動により鎮火した。この事故による負傷者はなし。
9	平成28年2月14日	乗合バス	2月14日（日）午前9時42分頃、長崎県の国道において、同県に営業所を置く乗合バスが乗客4名を乗せて運行中、車内で異臭がしたため、車両を停止させ点検したところ、エンジンルームから出火した。事故は、バスの運転者が車両後部のエンジンルームから白煙があがっていたため、乗客を避難させ、エンジンルームを確認したところ、セルモーターの配線部分付近より出火しており、消火器を使用したところ鎮火したもの。この事故による負傷者はなし。
10	平成28年2月20日	貸切バス	2月20日（土）午後2時54分頃 熊本県の高速道路において、佐賀県に営業所を置く貸切バスが乗客33名を乗せて運行中、後部エンジンルーム付近から出火した。この事故による負傷者はなし。（乗客及び乗務員2名は全員避難した。）運転者はバスを停止させた後、乗客全員を避難させ、車載の消火器及びトンネル内に配置された消火器を使用し消火活動を行い鎮火した模様。バスは平成13年式で、火災の原因については調査中。